

これからが

これまでを

決める

藤代 聰磨

『2026年難波別院カレンダー』1月のことば

掲示板のことば

先日、妹からクラフトビールが届きました。「ビール好きな彼女が選んだのだから」と、はやる気持ちを抑えお礼の電話をすると、「私：小学校の先生を辞めて、ブルワー（ビール職人）になるため弟子入りしようと思っているの」と相談されました。

妹は子どもの頃から優秀で、姉弟妹の中でも特に勉強ができました。地元の教育大学を卒業後、小学校教諭になりました。私は「天職」だろうと思っていましたが、彼女はただ勉強ができたため仕方なく教員になったと言っただけです。一般的には、どのような環境に生まれ、どの学校を卒業し、どんな資格を取得して、どんな職業に就く

のか。「これまでがこれからを決める」と考えるのだと思います。しかしその過程には、望まないことや諦めなど、無理やり自分を納得させてきた過去が含まれることもあるでしょう。そのような「これまで」に縛られて、「これから」を見失ってしまうのではないのでしょうか。

これまでの過去を変えることはできません。しかし、「今」を確かに生きることのできる「これまで」の私を受け止め頷いていける様になるのでしょうか。だからこそ、「これからがこれまでを決める」ということではないのでしょうか。ブルワーになるか、教員として生きるのか。苦悩の絶えない人生を、一杯、彼女の「今」を生きて欲しいと願います。

（大阪教区教化センター）

今月のことば

相好あうごうごとに百千ひゃくせんの

ひかりを十方じつぱうにはなちてぞ

つねに妙法みょうほうときひろめ

衆生しゆじやうを仏道ぶつどうにいらしむる

という時間軸であり縦の世界。「ひかり」というのはそれに対して、その時その時のもの「すべてに広く」という横の世界です。

の法話で「親を亡くして親を知り、親を亡くして親と出遇う」という話をしました。すると後輩が「ほんまですわ」と一言呟いた後、溢れるように言葉をつないできたのです。

後輩はもともと銀行員でしたが、その仕事を辞めて実家の農業を手伝うことになったのです。自分で決めたのだからと、

農業について一から勉強し、懸命に努力をしたそうです。新しい方法を取り入れながら徐々に満足のいく作物を育てられるようになっていきました。が、お父様とは農業の方針について折り合いがつかず、毎日のように言い争いばかりしていたというのです。

お父様が亡くなられて

数年が経ち「今になってやっと親父がやかましく俺に言っていた意味が分かるようになりました」と話してくれました。生きていた時は毎日顔を合せていたのに、亡くなって数年「ようやく本当の意味で親父と出遇えました」と気づかれ、仏前で手を合わせていました。

「つねに妙法ときひろめ衆生を仏道にいらしむる」の一節を思い出すと、私たちそれぞれに合った最善のはたらきかけを縁として、「仏道を歩めよ」とお導きくださっているように感じます。

(松谷 泰明)

今月のことば出典『浄土和讃』

『真宗聖典』(初版) 482頁

(第二版) 577頁

『増補 真宗大谷派 勤行集』

(青本) 123頁

このご和讃を私なりにいただきますと「浄土にある花の中から無数の光とともに無数の仏さまが現れ、その仏さまそれぞれから数限りない光(はたらき)をあらゆる世界に放たれて、常にこの上ない素晴らしい教えを説きひろめられ、あらゆる衆生を仏さまの世界へ続く道へとお導きくださる」となります。

「つねに」というのは過去・現在・未来に至るまで「ずっと・いつでも」

また「道」とは迷いようがない大きな道を指します。その道を歩んでさえいけば必ず目的地に辿りつけるという道です。さらに「道」とは書道や剣道などを思い浮かべていただくと思われるように、鍛錬を通してその人自身の生き方までも導いてくれるような「道」なのです。

先日、地元の後輩の家でお父様の三回忌を勤めさせていただいた時のことです。私はそのご法事

へ知ってる？ 仏事のあれこれ

「修正会」ってなあに？



～自身の現在地を確認する仏事～

大阪市 専光寺 越本 了顯

「修正会」とは新しい年を迎え、最初に勤められる仏事です。東本願寺のホームページを見ても、一年の初めに莊嚴を整え、身も心もひきしめ、仏恩報謝の思いをもって新しい年にのぞむ仏事」という説明がなされています。私なりに一言でまとめると、修正会は身と心を正しく整える仏事だといえるでしょう。

以前ある法話の中で、「循環彷徨」という言葉に出会いました。調べてみ

ますと、どうやら造語のようで、「循環」と「彷徨」の二つの言葉をくっつけたものだということがわかりました。砂漠や雪原などの何も目印がないところでは、人は真っ直ぐ進んでいるつもりでも、気付かぬうちにズレてしまい、円を描くように元のところへ戻ってきてしまふのだそうです。

この「循環彷徨」という言葉は私たちの人生の迷いを言い表しています。“こつ”という自分になりた

い”とか、“あの時こう言っていればよかった”など、どうにもならないことで思い悩む、ということが私はよくあります。

思いの中で彷徨い、事実を見失い、結局元の場所に戻ってきてしまう。こういう時は道標が必要で、す。それが「聞法」なのだと思えます。砂漠の中にオアシス、雪原の中に明かりのついた小屋があれば、それを目印に真っ直ぐ進むことができます。聞法することで何度も自分の現在地を確認し、ズレに気付かせ、修正していくことで、自分の本当にしたいこと、しなければならぬこと、できることが見えてくるのではないのでしょうか。その確認を一年の初めに

行うのがこの「修正会」なのだ、私は認識しています。

修正会是一年で最初の法要なのに、なぜこんなにもあっさりしているのだろうか、と疑問を持っていました。そのことを改めて考えてみますと、「お祝い事ではないから」ということなのかなと思いました。

新年は、「明けましておめでとうございます」という挨拶から始まります。お正月はおめでたい事だというのが一般的な認識です。しかし、先に述べたように、新しい年にのぞむにあたって、あらためて自らの現在地を再確認することが、修正会という法要を勤める意義なのではないかと思えます。



仏教マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ〈246〉

かな
悲しみを
知ること

戦争で身寄り
を失った
子どもたち
のお世話
をする
女性
がいました

